

こんにちは♪ ひさしぶり♪ みんな元気にしてた？ あっという間にオリンピックの夏、いちばん暑かった夏、そして夏休みは終わってしまいましたね。さあ、新シーズン。まだまだ暑いですが、シャキッとしましょう！ ぐだぐだのみなさんに、うれしいニュースがあります！ **夏休みのあいだに図書館に新しいマンガを入荷しました！** みなさんのリクエストの声が高かった、そして歴史に残るものばかりです！ 気になるタイトルは以下のとおり！ 早い者勝ち！ 図書館へと急げ！

『ハイキュー!!』古舘春一  
『推しの子』赤坂アカ  
『ゴールデンカムイ』野田サトル  
『進撃の巨人』諫山 創  
『違国日記』ヤマシタトモコ  
『Dr. スランプ』鳥山 明

## 芥川賞受賞作

### 『さんこうバリ山行』松永K三蔵

タイトルの「バリ」とは、バリエーションルートの略。安全な通常の登山道をあえて通らずに行く、危険覚悟の登山のことをいいます。建物の外装の修繕を専門とする会社に勤める波多は、同僚に誘われて職場の希望者での山登りに参加することになった。六甲山へと登ったそれは好評で、第2回、第3回と行われるようになり、なんと会社公認の「登山部」へと成長することになる。波多もメンバーとなって楽しんでいたが、そんな登山部の山行に妻鹿さんが参加すると聞いて、意外に思う。彼は誰ともつるまない変わり者で、職場の「つきあい」にはいっさい参加していなかったからだ。実は彼も山をやっているんだという。しかも毎週登るほどの熱の入れようなのだそう。さらに彼がやってるのは、難易度が高く危険なバリ山行だというのだ…。「山は遊びですよ。遊びで死んだら意味ないじゃないですか！ 本物の危機は山じゃないですよ。街ですよ！ 生活ですよ。妻鹿さんはそれから逃げてただけじゃないですか！」

## 『傲慢と善良』 辻村深月

去年最大のベストセラーでブクログ大賞も受賞した作品が、藤ヶ谷太輔&奈緒W主演で映画化！「あいつが家にいる」「助けて、架（かける）くん」。百パーセントの相手との結婚を先延ばしにしたために振られ、彼女のことを女々しく引きずりながら「婚活」をし、50人もの女性と出会ったあげく、婚活アプリでようやくめぐり会えた真実。1年半以上つきあって結婚したいという気持ちは正直70パーセントぐらいだったのだが、本気になったのは真実がストーカーに狙われていると知ったからだった。彼女はそれまでも「見られている気がする」などとたびたび架に訴えていたのだが、軽く聞き流してきてしまっていた。ところが、ある日の夜に友だちたちと飲んでいるところに、真実から泣きながら電話がかかってきた。仕事を終えて家に帰ったら、窓に明かりがついていて中にあいつがいるのだという。真実は架に助けを求めている。架の家で震えながら待っていた彼女を抱きしめたとき、架は真実と結婚しようと決意したのだった。ところが、同棲し、結婚式の準備を進めるその2ヶ月後に、突然真実は失踪してしまう。いつもどおりにお昼に電話で話したきり。自分の部屋に婚約指輪を置いて。真実はストーカーの男に連れ去られたのではないか。架は、彼女が自分と出会う前に暮らしていた群馬にストーカーの男の手がかりを探しに赴く。架は知りたかったのだ。真実の物語と過去を。婚活で彼女が訪れた結婚相談所で、婚活がうまくいかないのは自己愛の強い「傲慢さ」と親のいうことを何でも聞いてしまう「善良さ」のせいだと知らされ、ただ真面目で「いい子」だと思っていた真実の知りたくなかった過去と嘘に向かい合うことになる…。

## 『いつか月夜』 寺地はるな

「寺地さんの作品の中で、一番好きです」（原田ひ香）。「モヤヤン」。ぼんやりとした不安がかたちになったもの。会社員の實成は、父親を亡くしてしばらくして、モヤヤンにつきまとわれるようになった。モヤヤンは人の姿をしているときもあるし、大きな丸いかたまりになっているときもある。そこにいると霧がかかったように視界が不明瞭になる。眠れないときがダメだ。あ、と思ったときにはモヤヤンが体内に忍びこもうとしているのだ。そういうときにはとにかく歩くようにしている。何も考えずに、とにかくひたすら夜道を歩く。ある晩歩いていると、偶然会社の同僚と出くわした。彼女は自分の娘ではない中学生くらいの女の子を連れていた…。「いつも月夜なんてありえないけど、月夜じゃなくても歩けるんだよ」。「一緒に歩かない？」

## 『JAGAE 織田信長伝奇行』 夢枕 獺

「猿よ、神も仏も、道具ぞ」「だから、おれは、神になろうとしているのだ」。「陰陽師」の夢枕獺が織田信長を描いた！ 怪異を信じないが、もし存在するのなら「ぜひ見たいものだ」と思っていて、神も仏も信じないが、それについて議論を戦わせるのを好み、強い者同士で戦わせていちばんを競わせる相撲が大好きだった信長を。徹底した合理主義者・信長に対峙するは、妖あやかしの者「飛び加藤」こと加藤段蔵！「これで、おもしろいものにならなかつたら、物語作家失格である」（著者）。タイトルの「JAGAE」とは、「蛇替えじやが」のこと。蛇を捕らえるために、池の水を汲み出すことに由来しています。『信長公記』にも記されているのですが、信長は、ある池に大蛇が出たという噂を耳にして、人を集め数百の桶で池の水を掻き出させて、その探索をしたことがあるのだそうです。信長は、UMA（未確認生物）探索者あるじだったのでした。城の主である14歳の信長がひとり柿を齧りながらほつつき歩いていると、人だかりの中心で得体の知れない漢おとこが牛を呑んでみせるといふ。驚くべきことに漢は実際に牛を呑み込んでゆくのだが、途中で木の上から見ていた子どもがそのタネを明かしてしまう。しくじった漢が地蔵に野薊のあざみをたむけて退散すると、野薊は子どもの首に替わっていた…。興味を持った信長が漢を追いかけると、彼は「いつか、ぬしのために、ひと働きしてやろう」と言う。誰であろうと殺すことのできる彼が、望む者を殺してやろうというのだ。これがふたりの出会い、ふたりの「命がけの遊び」の始まりだった…。「どうじゃ、信長よ、おもしろかったであろう」「何がじゃ」「ぬしの生涯がじゃ」。こんなに面白い生涯を生きた者はほかにない！

## 『わたしの知る花』 町田そのこ

本屋大賞を受賞し映画化もされた『52ヘルツのクジラたち』の著者の最新作！「あんたは、俺から花をもらってくれるのか」。4ヶ月前に、突然公園へと現れた「絵描きジジイ」。黒の開襟長袖シャツと同色のチノパンと、くたびれた黒ずくめの洋服に、穴の空いたぼろぼろの麦わら帽子。いつもその姿で、手作りっぽい斜め掛け画板を首から掛けて、絵に描くものなんて周りにはないだろうに、熱心に鉛筆を動かしている。噂によると、彼は昔この街で暮らしていた超イケメンで、若いころは女の人にお金を貢がせるヒモで、結婚詐欺あんじゅのようなこともしていたらしい。犯罪者だったともいう。女子高生の安珠は、少しだけ仲良くなるのだが、ひまわりの花をもらったのを最後に、彼は孤独死してしまう。彼は生涯を通じてひとつの作品を描いていた…。

### 『もう一度、泳ぐ。』 池江璃花子

残念ながら、パリ五輪では結果を残すことができなかった池江璃花子。この本は、白血病と診断されてから、パリ五輪の切符を手にするまでの5年間の記録です。「あまり私のことを見ないで、もうそこまで私すごくないから注目しないで」と思っていた彼女が、「こんなに体も大きくなって、速くなったから、みんな見て」と思えるようになります。羽生結弦との対談も収録！

### 『虫本 みて、かんじて、そしてかんがえよう』

養老孟司 小檜山賢二

虫は好きですか？ この夏は虫好きにはうれしい夏となりました。国立科学博物館で「昆虫 MANIAC」展、東京スカイツリータウンで「大昆虫展」と、二つの大規模な虫の展覧会が開催されたからです。この二つの陰に隠れてしまいましたが、大分県立美術館でも養老孟司さんと小檜山賢二さんによる「虫展」も開催されました。この本はその「虫展」を本で再現したものです。「なぜ私が飽きもせず虫を見ているか。お金にはまったくならず、尊敬もいっさいされないが、とにかくいつも発見がある」。無類の虫好きで知られる養老さんの言葉と、対象物の全てにピントがあう「深度合成技法」を駆使した小檜山さんの写真とのコラボ。とにかく、小檜山さんの虫の写真を一枚でも見てください！ たとえばたかだか1 cm しかないゾウムシは、微細で複雑で奇妙なかたちをしていて、こんなにびっしりと「詰まっている」のです。そのディテールがハッキリと見える。虫の「かたち」の面白さにほれぼれとしてしまいます。

## お知らせ

◎図書館のURLの変更をお願いします。

<https://lib-finder.net/yamanashi16/private>



※ID・パスワードがわからなくなってしまった方は、図書館にお越しく下さい。

◎夏休み貸し出しの本を返しにきてください！